

上ヶ原地区「防災教室」

上ヶ原地区青少年愛護協議会

事業費 117,549 円
助成額 91,000 円

●当初の課題・事業目的

コロナ禍を経て、世代や立場の枠を超えた「リアルな付き合い」が希薄になる傾向も加速されたと感じます。毎年日本のどこかで起きる自然災害のニュースに触れていると、いつ再び私たちが当事者になっても不思議ではありません。災害が予測されるとき、私たちはいかに考え行動すべきか、日頃から心掛けておくこと、知っておくべき最新の考え方や準備方法などを学習、模擬訓練することをきっかけとして、防災への知恵、緊張感、そして地域のリアルな協力関係を見直したいと考えました。



会長 糟谷 浩史

●事業概要

【実施日】令和6年11月2日（土）午前9時～12時（準備は8時ごろから）

【実施場所】上ヶ原小学校（図書室、家庭科室、渡廊下、体育館ほか）

【協力団体】上ヶ原小学校コミスク、自治会（仁川百合野町、仁六）、地域団体役員、民生委員/児童委員、関西学院大学社会学部関ゼミ、並びに西宮市関係部署

【実施したプログラム】

- ・パネル展示（自然災害への「備え」「判断」「行動」への最新情報、阪神淡路大震災被害状況、能登半島地震の消防隊や医療隊の活動状況など）
- ・段ボールベッド組立体験、水消火器体験、非常時の応急給水体験、救命入門体験（心肺蘇生とAED）消防服装着体験、身近な材料でできる応急手当のワークショップ
- ・広報紙（青愛協だより45号）にて今回のイベント報告（小学校家庭配付、地域内全自治会回覧他）



●事業の成果・工夫した点

- ・賛同いただいた複数の地域団体、自治会、民生委員児童委員の皆さんには、作業準備や資料提供に加え当日の運営にもご協力いただいた。
- ・関西学院大学関研究室の学生の皆さんは身近な材料で応急手当のワークショップを担当。世代をまたいだ地域共助に明るい希望を感じた。
- ・受領資料は上ヶ原青愛協で編集し今後も活用できる資料としてまとめた。

●苦労した点・今後の課題

- ・既定のプログラムがなく手探りではあったが、防災危機管理課から関係部署に共有いただき、各部署の方も大変協力的だった。
- ・温帯低気圧に変わった季節外れの台風21号の影響が残ри、体験場所を一部変更する等の対応をしたが、幸いに開催時間帯は雨も小康状態となり、小さな子供連れの家族やご高齢の方も多く来場いただいた。

●参加者のコメント

テレビなどで見ていたダンボールベッドを実際に見て組み立てることができたりいい経験になりました。ただ、実際に小学校に避難した際に、どのようになるのか、例えば基本体育館避難、教室避難、電気が通っている場合の空調、幼児がいるのでその場合の対策等、避難の際にシュミレーションできるような詳細な情報等知れたらもっとありがたかったです。いざという時に、少しでも前情報があれば冷静に行動できたり、前もって準備できることもあると思うので。また機会がありましたらよろしくお願いします。